愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

(定價)一枚參錢五厘 一ヶ月分七錢 三ヶ月貳拾壹錢 半年分四拾貳錢 一ヶ年分八拾四錢 全國無逓送料 郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割増
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所 東京市麹町區下二番町三十七番地 大日本女學會内 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

電話番町壹千三百三十番

社說

遊惰なる日本人

金を溜めて樂をしたいと云ふ考は普通日本人の目的であッて所謂公債證書をたんと持ッて隠居したいと云ふのが普通日本人の理想である此樂をしたい隠居したいと云ふ考は大に間違ッた料簡である此料簡を改めねば家の繁昌も國の隆興も決して望めない

元來隠居といふ事は西洋にはないので是は日本の封建時代に武士は盛壯でなくては戰爭ができないから老年に及ぶと家督を其子に讓ッて退隠する必要を生じたのである此武士の退隠を町人百姓までも眞似て隠居といふ風習ができたのである今日は皇室に於かせられても御讓位といふ事は以後ない樣に皇室典範で規定されてあるから臣民たる者も不得止事情のない限りは隠居しない事に致したいものである

人間は働ける限りは働かないと家の爲や國の爲にならない計りでなく自分の身體の爲にもならない責任がなくぶら〳〵して居ると早く老朽するものである年をとる程身體の段々衰へ行くのは生理作用であッて致し方もないが腦髓は經驗を積んでいよ〳〵老練となり一生涯活動のできるものである

斯樣な道理であるのに日本人は兎角働く事が嫌いである衣食住に差支ない身分となると何も十分に仕事をしない者が多い農家でも少し廣い地面を有ッて居ると盡く小作人に托して自分はぶら〳〵遊んで居る者が孰れの地方でも澤山ある都會には人形の樣に店に坐ッて居る商人が大層ある何か手仕事しつゝ店番をしたら宜しからう又事務を執つて居る人々は形式に拘泥して誠に緩漫である勉強したなら一日で出來る仕事もぐず〳〵して一週間もかゝッて居る又書生でありながら學校へもろくに出ない者が東京だけでも隨分大勢居る殊に關東には遊人と名のついて居る一種の不良民即ち博徒さへ大勢居る夫の相場師とかいふ者も此遊人の上等な者で是も生産には關係のない遊民である斯樣な惰け者を日本全國通じて計算して見たならば實に夥しい數であらう是に由て觀れば日本の國力進歩が遲々たるも不思議はないのである

近年北米合衆國の國力進歩は實に非常なものであッて其輸出額は遂に英國をも凌駕して世界第一となり政府の歳入は年々大剩餘を來し其遣方に頭を悩まして居る日本の年々大不足で困ッて居るのと正反對である是は抑も何が原因であらうかと云ふに國民の活動力が然らしむるのである國民擧ッて働手計りで無駄が少しもない何百万何千万何億圓といふ金持の子息でも皆會社とか工場とかへ出勤して朝から晩まで働いて居る夫の名高い鐵道大王と稱する世界一二の大富豪ヴハンダービルトの若主人でさへ毎日工場へ出て執務して居るといふ事である日本人の大に鑑みねばならぬ事である

演説

婦人讀書會開會の辭

評議員　鳩山春子

本會は婦人讀書會と申しましても、婦人が集會して互に讀書すると申す譯ではありません。各自宅に於て自分に適當と考ふる書物を自分の好みに任せ讀みまして、會員をして讀書を樂み、其智識を増し進め、品性を養ひ高めたいと申す趣意でございます。申す迄もなく、時と金とを儉約致し、最も容易なる方法により、最も多くの智識を得んと考へますれば、讀書に若くものはございません。讀書は居ながら世界の人情風俗をも詳に知ることが出來、如何なる身分の人にても、何人の紹介もなく、古今の最も高尚なる人物に近づき、親しく其人の話を聞くことが出來ます。讀書は諸大家の卓説を玩味し、批評する自由を與へます。讀書は人の心を大きく致し心狹き愚痴の觀念を除き去ることが出來ます。讀書は人の理想を發達させます、即ち前に自分で、最も高き道德と考へ理想といたし居りしことも、段々高尚の書物をよみます時は、一層それより高き道德を悟り、理想とするやうになります。讀書は實に人の精神上に莫大なる幸福と愉快とを與へ、極めて有益なることでありますが、此有益なる讀書も其讀む書物の種類によりては、其益を受くること少なく、或は却て害のあることがあります。それ故に讀書に就て最も必要なるは、其讀む書物を擇ぶことであります。併し、此書物を擇び適當のものを見出す事が、また甚だ困難であります。これは金や時の十分ある人に於ても、餘程むづかしいことで、常に新聞雑誌等の廣告に注意は致しましても、迚も能く分ることは出來ません。されば如何なる方法により、最も有益にして、而かも面白き書物を得むと思ひますれば、矢張廣く世間に出て、讀書を樂む人に聞き合せるより致方がないと考へます。けれども、これも亦餘程むづかしき事と考へます。それでありますから、私共は本會を作りまして、成る可く多くの會員を得、會員は毎月若干の會費を出し、其會費を以て、會員相談の上、世間に評判よき書物を買ひ求め、之を會の共有物とし、會員は誰でも自由に之を借り得ることに致し、讀書に便利を與へます。其他當會員に讀書を奬勵する爲め、いろ〳〵の規則も出來をりますが、つまり會員が讀書を樂み、讀書により智識を増進し、品性を高むることが出來れば、他の規則は會員相談の上、改正することもあらうと考へます。

此會員共有の書物を有することは、餘程有益に便利のものであると考へまするは、外國にて公立國立の立派なる書籍館ありて、誰でも自由に書物を借り得る處に於ても、尚此會員共有の書籍館の設あるを以て分ります。私共日本婦人に於ては殊に必要と考へまするは、私共は交際も西洋人の如く頻繁ならねば、自分一人にて如何なる書物が有益なるか、又如何なる書物が新たに出版されて評判よきかも容易に分らざれば、會員全躰にて一年に數回會合し、之れ等を詳細に相談し、適當と認むる書物を會費を以て購ふ時は、一方には自分一人にて書物を詮義するよりも、自分の思ひ寄らぬ面白き有益なる書物を得るの便利を得、又他方には僅かの會費を以て、よく高價の書物を多く讀み得る利益を得らるゝことゝ考へます。されど之れは少數の會員にては、到底目的を達することが出來ませんから、何卒皆樣に同情を頂き御入會を願ひたいと存じます。只今の處にては、會費は一ヶ月二十五錢にて會費も餘り多くありませんから、十分書物を求むることも出來ませんが、幸に德富さんは最初より非常に御贊成下され、民友社に出版さるゝ書物は何なりと私共の望むものを寄附し下さる旨申し下され、又本田さんも、今日既に御自分に御著しなさッた書物を御持參御寄附下されました。これは實に私共に取りて有りがたきことにて、私共婦人仲間にて何事を致さんとするも、男子方の御助力を頂かねば、到底其事は成功致しません。德富さん本田さんの如く、追々世間の學者からは同情を得、御贊助を蒙りましたらば、此婦人讀書會も益々盛大に相成り、會員の此會の爲めに利益を受け、品性を高め得ることも疑ひありません。左樣に相成ります時は、日本婦人一般にも、餘程よき影響を及ぼすことが出來やうと考へます。何卒爰に御出席の皆樣は御入會の上、尚ほ御友人御知己へも宜しく御披露を願ひます。

評議員 侯爵夫人蜂須賀隨子筆

筆のあとに渦にし事なとゝめずば
知らぬ昔はいかで逢ばまし　式子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎懷舊談(其五)

海軍大尉　長尾耕作

○意外々々極上の淡水　他の船指して談判に行きかけた、すると、「メート」先生漸く理窟が分かつた、「メート」先生の心配は、船員が宇品迄歸航の途中に用ゆる水が不足しはせぬかの一事であるが、何千人にも匹敵する人馬の頭數が一日に使ふ水の分量は、寧ろ小蒸汽一日の用量より越えるから、何れかと云へば、一時間でも早く鎭臺さんが上陸して呉れたのが船に取ッては都合がよし又一時間でも早く宇品へ歸りたい、鎭臺さんの方では一刻も早く上陸して淸國の地に足踏したい、是等の事情から到底悉皆々々云ふのは損てある事が分かッた、其れから呉れた水は意外々々、極上々の淡水で鹹の「し」の字もない。

予は考へた、陸兵が乘船すると、陸兵達は陸上の習慣で平生淡水の不自由と云ふ感じがない爲め船ては迷惑するので、色々心得書などを張り出す、其れでも「ポムプ」には錠を卸ろして動かせない樣にする位だから、「メート」先生は同じ兵の字の附く水兵でも、同樣だと心得たものであらうと。此邊が未だ海事の智識が進歩しない證據で、「メート」先生の如きは自分より外に、船の淡水に不自由するを知らぬ樣に思ッて居たのであらう。

○韓人の懶惰　韓人が勤勉であらうものなら、決して今日の境遇には陷るまいが、彼等實に亡國の民たるは、日淸戰爭中に能く實驗された。韓國の沿岸には所々に淸水の出る處があッても、元來井戸が皆無であるから、軍艦の水兵が上陸して、穴を掘り、之に溜る水を「ポンプ」で、汲み上げると云ふ困難に出會したが、長直路や、其他の土地ては、海岸に白衣の韓人が、珍らし氣に集ッてくる、そこで、彼等に食用ビスケットを與へて「ポンプ」を突かせると彼等は、食ひたさに働いてをる、しかし、一時に多くのビスケットを與へるとか、又は前に之を與へれば、何と云ッても働かない、彼等は腹が減らなければ、決して働かない、それて、彼等を働かしめて相當の分量を與へれは、食ひ終ッて又働らく、腹が減らなければ、忽ち去ッてしまふ、全く獸類も同樣である、是等は天然の法則として蠻民に通例の事てはあるが、以て彼等の爲すなきを知るに足るのである。

○支那人の狡猾　韓人に反し支那人は利慾一點てある、日淸戰爭中吾等が食料を海岸に求めに行くと、野菜の畑主でも牛の所有主でも、其の所有主は誰かと聞くと皆知らない知らないと答へる、之は取られはせぬかと考へるからである。牛などは放れてをる事は滅多にないから、大抵持主は知れるし、代價も持主に拂ふ事が出來るが、豚とか雞とかの持主は誰か能く分らない、然るに代價を拂ふと云ふ場合になると、今迄所有者は知らぬと云ッた奴が、自分の豚だとか雞だとか云つて、異の持主を知るに苦んだことが多かッた、彼等の金錢上に拔目なき事は實に甚しいものである。(未完)

講談　北京籠城の婦人

森林黒猿

日本の婦人室は十四五疊の室二間にして、一室には一個の寢臺と人々の行李などを收め、他の一室には床の上にアンペラを敷き、此所に石井、楢原、中川、小川の各婦人、其他小兒下婢等十名の者、食堂とも居間とも又寢臺ともして集り居られたので在いますが、七月十三日の事小川夫人文子は風邪に冒されて發熱の氣味あり、何となく心地惡く在いますから、其の後方の一室に在る寢臺の上に坐して、兩の眼を閉ぢ膝に兩の手を置いて心氣を休めて居りますと、俄にドヤーレツガラ〱〱ッと凄じき響きが致しまして、一發の砲彈は小川夫人の後脊上なる窓格子に命中し、煉瓦及び木片硝子片など飛び散らしつゝ、文子夫人の頭上を最も近く掠めて、其の傍なる壁に中ッたから堪りません、流石に雄々しき夫人も思はず「アッ」と叫びつゝ、寢臺の上に俯伏しになッて、一時は惘として氣が遠くなり、全然夢の樣な心地になッて了ひました。若し此時砲彈の飛來る事今一寸ほど低かッたならば、哀れ文子夫人の頭部は忽ちに破れ裂けて、宛轉たる蛾眉空しく英館庭の露と消え、金釵搔頭徒らに地に委せられて了ッたて在ます。寔に危い所を遁れたのは御好運で在いましたが、是が爲に土砂を飛ばし、夫人の綠艶なす黑髮は全く塵埃に覆はれ砲煙は濛々として滿室薄暗くなッて了ひました。中川軍醫夫人幾代子は次の間で此の物音を聞き付け、偖は小川夫人がと思ひましたから遠く駈け付けやうと致しますと、石井書記官の小供衆が泣き出したり、下婢連が肝を潰して騷き廻るので、中川夫人は之を制し狼狽ては不可ません、確乎して被在い〱、決して怖い事はありませんと力を附けて置いて、小川夫人の居る室へ馳せ付せて見ると、澳太利人が速くも駈け付けて、己に小川夫人を寢臺から抱き下し介抱して居て呉れます。そこへ又川上和尚も駈け來りまして、「小川さんの夫人如何です、何處かお負傷はありませんか。」

小川夫人「ハ、ハイ、有難う在います、何だか左の膝の所が少し傷みますがと、應へるので、中川夫人が小川夫人の左の膝を改めると、些し負傷して血が出て居りますから、直ぐに中川夫人は小川夫人の傷所に藥を附けて繃帶を施し「纔かな傷ですから御心配ありません、お心地は如何です。」小川夫人「甚麼も寔に相濟みません、ナニ心地は何とも在いません。」と、言つては居られますが、何だか變な樣子ゆゑ、澳太利人はウヰスキーをコップへ半分ばかり小川夫人に飮ませましたので、夫人は是が爲に心地は回復したが、眼が眩つて足が蹌踉して困られたさうで在います。此時川上貞信和尚は不圖寢臺の上を見ると、舊式の徑三寸位な鐵丸か落ちて居りますから。川上和尚「ヤア是だ〱、アヽ、危い事〱、皆さん御覽さない、此の砲彈が頭へても命中したら堪るものではありません。」と、言はれて人々之を見、慄然致さぬ者はありません、此の砲彈は小川氏が持ち歸ッて紀念として、常に床の間に据ゑて置かれます、川上和尚は熟々想ふに、小川夫人こそ天祐に依ッて生命を全したけれども、恁う云ふ有樣では如何なる狀態に陷るやも知れず、此上は益々穴掘りを急がなくてはならぬと心を決し、是より晝夜殆ど休みなく穴を掘ります。此の穴と云ふのは、我が婦人室の横手の庭に、長さ三間位巾二間位深さ殆んど一丈位の穴を掘ッて、婦人小兒を是へ入れ、其上に材木を以て家根を作り、それに土を盛ッて、敵砲を避けるの工夫て在いまして、川上和尚は去る二日から思ひ立ッて頻りに掘ッて居りまするが、何を云ふにも一人の事ゆゑ捗々しく參りません、いよ〱穴の必要に迫られて來たので、和尚は此夜毫しも寢ないで、慣れない鍬を携へトンカチ〱と掘ッて居るが、如何に堅忍剛毅の和尚にも身躰の疲れには仕方がない、吾知らず鍬を握ッた儘に、何時しか穴の中に眠ッて了ひました。(未完)

田家秋夕　評議員子爵夫人　本多延子

山田守るしつの心やみたるらむ
　いなはなみよる秋の夕かせ

月前菊　評議員　中山幸子

わかやとのまかきにさきしら菊に
　光をそへし冬のよの月

木枯

木からしのおときくたにもさひしきを
　そらにわたれるかりかねのこゑ

奥村五百子刀自の遊說日記を讀みて　東京會員　相川じゆん子

世の人もいかて心をよせさらむ
　御國につくす君かさとしに

殘雁

一聲は空に殘して霜ふかき
　ふゆ田におつるかりのひとつら

紅葉　東京會員　失名

大空も下行く水も秋すみて
　まばゆきばかりてる紅葉かな

菊

おく霜に香やはかくるゝ白菊の
　操を人のこゝろともがな

甲武鐵道の滊車より軍用鐵道を見て

草しけき中にさひたるまかね路は
　たひらけき世のしるしなりけり

秋の山　神奈川　須山規矩子

うちむれて行人かけもみゆる哉
　秋のやまゝちの紅葉はの陰

仝　愛知　角田ともゑ子

おち葉たく烟そみゆる秋山に
　とりたるたけを人やゝくらん

千鳥　東京　矢某女

うみはかり靑く殘りし雪の夜に
　積むと見たるは千鳥なりけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人傳

松尾多世子の傳

評議員　下田歌子

信濃國伊那郡の住人、竹村常盟といふ人の長女に、多世と呼べるがありけり。幼きより、書讀むことを好みて、何まれ、父が机に在る所の書物をくりひろげては、拾ひ讀みしつゝ、父に對ひて、さま〴〵の質問をぞなしける。誰れしの人も、待ちつけて得たる初子をいとほしうするが常なれば、父母は掌の玉、揷頭の花と愛でいつくしむからに、その好からぬことを好めるだに、强ひてはえもといめあへぬが人情なるを、况てやこれは、いと最良じかるべき文學びの道よ。好めるがまに〳〵、撰び與へて、且つは、文作り、歌讀むことをさへ、敎へたりけるに、多世子一を聞きて二を知る天授の才、まことに、大人耻かしきまでぞ、進みに進みもて行きける。斯くて、父なる人も、こは女の見にしあれば先づ、旨と、御國學びをせさするこそ、似合々しかるべけれとて、専ら皇典歌書を授けぬ。さるからに、多世子は、菅の根の長き春の日も、明けやらぬ冬の霜夜も、暮るゝを惜しみ、更くるをかこちて、學びの窓の燈火をのみ、睦ましき友と、明し暮すになん、母なる人は、我が子を思ふ愛の餘りに、時としては、氣鬱の病ひをや引き起さん、または女の務むべきわざを嫌ひて、なま〳〵の夫に傅くことを、いなみなどするやうもやあらん。と、いと痛う心づかひして、やうやう齡たけゆく程に、縫ひ針のわざはいふも更なり、紡み績ぎ、機織り、養蠶することに至るまで、何くれと、いたづき敎へにけり。たせ子は、もとより。書學びの道にこそ心はつくせ、其餘の事は、いと物うくのみ覺えたりしかども、學びの力、次第に加りもて行くまゝに、そが慮りも深うなりて、げに、我れは、兎ても角ても、女子と生れ出て來たるなれば、母の仰するやうに、先づ女の工一わたり、心得たる後ならでは、何事も、えこそ、下り立ちては、すまじきなりけれ。いでや。能く、己がつとむべきをつとめて、さてこそ、己が好めるわざをも磨かめと思ひ起して、これよりは、女工の事に、深く思ひはひそめたりけり。斯くて、年齡十九歲といふ年に、同じ郡神稻村なる、松尾淳齊といふ人に嫁ぎぬ。多世女は、才學に秀でゝ、萬づの藝に拙からざるのみならず、其心ざま、氣高く雄々しくして、たてたる趣の强く折れ難き所のありければ、他人の家に嫁して後、夫の意に逆ひなどすることもやなど、家なる人は、取り越し苦勞もしたりけん。されど、伶悧しき多世女は、能く、其夫に事へて、貞節たとふるにもの無く、且つ朝には夙に起きて、奴婢等も、目覺めぬ程に、梳り衣裝して、耕作、養蠶のことまで、家人に先き立ちて、いたづき勉めたりしかば、傳へ聞く者、みなこれを歎賞して、其始め、女の益なき生才學は、却りて、其家を亡ほす基なりなど、誹りし人も、げに學問はすべきものぞ。才能はありたきことなり。といはしむるに、至れりき。さて斯かる家事のいとま〳〵には、書を繙き歌を詠みて、常に思ひを九重の雲井はるかにはこびたりき。夫も、妻が行ひのいみじきに愛でゝそが好めるわざを、助け長ぜしめんと、當時、歌道に名を得たりける、岩崎長世、石川依平、福住淸風などいふ人々に就きて、ます〳〵皇學歌道を研究せしめき。然れども、多世女は是等の用書類を購ひ、且つ、謝禮其他一切の費えには、敢へて、夫家の資金を以てすること無く、我が所有の櫛簪笄あるは、自餘の裝飾具などを、賣り拂ひて、これに充てきとぞ。さるからに、己れが身には、つねに麁服を着け、麁食を食ひて、更に、華やぎたる世の流行などを逐ふこと、無きは勿論にて、勉めて能く勸儉を守ることとこよなかりしかども、さりとて、又其夫家をして、吝なりなどいふ誹りを蒙らしむることとては無く、己れを約やかにして、能く人に施したりしかば、孰れも、たせ女が婦德の優れたるをぞ、賞賛しける。

（未完）

評議員　侯爵夫人　山内禎子

童話

鶯と鼠

漣山人

或日の事でありました、一羽の奇麗な鶯が、樫の木の枝に止ッて居りますと、其根下の穴の中から、鼠が一匹チヨロ〳〵と出て、下に落ちて居る樫の實を、頻りに拾ッては巢へ運んで居ました。するると樹の上の鶯は、笑ひながら見おろして、

（鶯）何だまアあの獸は、何と云ふ汚い奴たらう地上の物を拾ッて喰べて……まア、ほんとに厭な事だねエ。

と、聞える樣に云ひましたので、鼠は下から見上げましたが、別に怒ッた顔もせず、

（鼠）おゝ、さう云ふお前さんは鶯さんか。ほんとに奇麗な事だねエ、

と云ひますと、鶯はずッと反身に成ッて、

（鶯）私の奇麗なのを、今日初めて氣が付いたの？まアほんとに馬鹿な鼠だ、お前はいつも穴に計り入ッて居て、そんな汚い身躰をしてるから、碌に世間も見られまいが、……見なさい私をさ！かう云ふ奇麗な羽根をして、こんな好い聲を持ッてるから、私が一度歌を謠ふか、踊ても躍ッて御覽！それこそ世界の木や艸が、みんな花や實を持ッて來て、みんな私に與れるから、お前の樣に地上の物まで、ガッ〳〵して拾はないでも、いつも御馳走は喰べ放題だよ。

（鼠）それはまア結構ですねエ、

（鶯）どうだい、お前羨ましけれや、ちッと歌を敎へたげやうか、……だがお前は無器用者で、只チウ〳〵云ふ計りだから、迚も歌は謠へまいねエ。

（鼠）ですから習はうとも思ひませんのさ。

（鶯）そんならいッそ踊にするかエ、だがお前の樣な汚い身躰ぢやア、いくら跳ねても榮えまいね。

（鼠）ですから踊らうとも思ひませんのさ。

（鶯）だッて、同じ世界に生れたのなら、歌を謠ふとか、踊を踊るとか、何とか藝が無くッちやア、生きてる効が無いぢや無いか。

（鼠）いゝえ、もう私なんぞは、かうして地の下に巢を作ッて、落ちてるものを拾ッて食ふ樣にちやんと生れ付いて居るのですから、矢張りこれで澤山ですよ。そんな餘計な藝なんぞがあると、却ッて苦勞が斷えませんからねエ。

と、鼠はまた精出して、餌を拾ッて居りました。處へ不意に飛んで來ましたのは、一羽の大鷲でありました。

鷲は方々飛び廻ッて、御腹の減ッて居る時ですから、此二匹を見付けると、これは好よ食物があッたと、急いで舞ひ下ッて來たのです。

すると鶯は肝を潰して、周章てゝ逃げやうとしましたが、元より先方は大きな鳥、此方は小鳥の事ですから、直ぐと捕ッてしまひましたので、食はれては、大變だと一生懸命に成ッて賴みました。

（鶯）鷲さん〳〵！私は踊が上手ですから、何卒命を助けて下ださい！さうしたら躍ッて見せますぜ。

と、云ひましたが、鷲は頭を振ッて、

（鷲）いや、踊ては腹が張らない、是非肉を食ッてしまふ。

（鶯）あゝ大變！食ふのは何卒待ッて下ださい。その代り歌を歌ひますから。

（鷲）いや、歌では腹が張らない。是非肉を食ッてしまふ。

（鶯）そんなに肉が食べたければ、彼方に居る鼠の肉を、何卒取ッて食べて下ださい。

（鷲）いゝや、鼠は汚い身躰をして、始終地の下に計り居るから、どうも肉が甘く無い、是非お前を食ッてしまふ。

と、とう〳〵大きな嘴でもッて、鶯を頭から食べてしまひました。

其間に鼠は尾を巻いて、根の下の巢の中へ、小さく成ッて逃げ込んでしまひましたから、首尾好く命を助かりましたとさ。

君が代は遥に見ゆるわたつみの
かぎれる果もあらじとぞ思ふ　濟輔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家庭敎育

一「氣を付けて放任せよとは」小兒養育の金言なり、小兒は意の儘に、叫ひ、笑ひ、驅け飛びてこそ、其身体の發育するものなれば、唯危險と惡しき習慣に染むとの虞なき限りは、成るべく其動作を抑制すべからず。

一總じて心に惡しき事と知らば、決して爲さゞるやう小兒の時より習慣を付くべし、晏起不行儀など心に惡しと思ひながら、習慣となりて改め難き事多きものなり。

一温和と綿密と忍耐とは女子の天性なれば、母は家庭敎育の主任者たるに適當なり。然しながら父の嚴格には母の及ばざる所なれば、母の愛情と父の嚴格と相よりて、いよ〳〵程よき敎育を施すを得べし。

一子女の養育は母自ら之に當るべし、富貴なる家にても、之を雇人にうち任すべからず。家庭敎育に最も大切なる恩愛の情は、之を雇人に望むべくもあらず。されども餘りに愛情に過ぐる時は、舐犢の愛に流れ、又は子女の使用人の如き弊に陷るべし、常に恩愛と威嚴と相離れざるやう心すべし。

一父母共に一定の敎育方針を立つべし、母は子女に向ひて右せよと命じ、父は左せよと云ふが如きは大に害ありされば、一家內舉りて其方針によらしむべし。

一總じて家庭の內は萬事公明正大を守り、決して家族相互の間に秘密を懷抱すべからず、殊に敎養すべき子女ある時期に於ては最も切要なり。父には內密なりとて、子女に食物を與へ遊山に伴ひなどする母あり、是れ子女に詭僞を敎ふるものにて、將來恐るべき弊害を生ぜむ。

◎家計收支の實況（其六）

東京芝 會員 何某子報知

一家族三人 但夫婦に下女一人

一收入の部

一金百七拾七圓也 總收入高

内金百參拾貳圓 俸給

金貳拾圓 三千圓の基本財產より生ずる利子平均入分

金貳拾五圓 著述其他よりの收入年三百圓を下らず

一支出の部

一九拾四圓五錢五厘 總支出高

内金六拾九圓貳拾七錢五厘 食費以外の諸費

金貳拾四圓七拾八錢 食費總額

金六拾九圓貳拾七錢五厘 食費以外の諸費

內譯

金拾壹圓 家賃

金九圓 被服

洋服夏冬一揃づゝ、其他外套類を作ることあり、此代六拾圓とす、和服月四圓位、主婦の金高の衣服は當分新調の必要なし、

金八圓 交際費（宴會。贈答品）

金壹圓七拾錢 圖書費（新聞、雜誌、參考書、）

金六圓 耳人小使

金貳圓 下女給金

金壹圓八拾錢 主婦月謝學費

金四圓 臨時費

金屬類、自轉車を買求む等、親屬の婚禮、死去、父母還暦の祝ひ物等、年々百圓以上を越ゆる事もあり、又二三十圓にて濟むこともあり、今後金屬類を求むる必要なし

金七圓八拾錢 衞生費

主婦子供なきため隔日病院に通ふ

金壹圓八拾錢 車代

主人は自轉車を用ふ、主婦も交際の時にのみ用ふ

金五拾七錢五厘 通信費

金四拾錢 小間物

金七拾錢 散髮費

金七拾五錢 靴、下駄（靴は年々五圓の品一足を求む）

金五圓 徒費（芝居、寄席、遊覽、旅行）

金參圓五拾錢 生命保險掛金

金貳圓拾錢 税金（所得税、自轉車税）

金五拾五錢 石油代

金五拾錢 筆紙墨代

金四拾錢 西洋洗濯

金壹圓 慈善費

金七拾錢 雜品

金貳拾四圓七拾八錢 食費總額

內譯

金五圓 白米

金九拾六錢 薪炭

金四拾參錢 水道入費

金參圓 牛乳

金八拾四錢 醬油、味噌、酢、味淋

金五圓五拾錢 魚肉、鷄卵

金四圓五拾錢 耳人中食官廳にて洋食す

金壹圓 洋食味バタ類の如き、

金壹圓五拾五錢 青物類

金貳圓 間食物其他

殘金八拾貳圓九拾四錢五厘 銀行に預け置く

暇に任せて私の家計收支を、恥しながら御目にかけましたから、どうか御批評を願ひます、私は家を持ちまして、四年余りになります、財產と申す樣なものでは御座りませぬが、三千圓といふものは四年の間に作りました、今後は尙殘したいと思ひます、衞生費の七圓五拾錢、徒費の五圓は、自分ながら消費と思ひますけれども、耳人は飮酒喫煙しませず、暇さへあれば机に向ひますから、好物の芝居は月に一度、寄席は一週一度は是非參ります、私は子供なきため三年以上病院に通ひます、此二つを除けば、支出は餘程少くなります、學資の一圓八十錢は、自分の好む道を稽古に參ります、私は何も彼も現金にて支拂ますが、家賃と牛乳のみ月末となります、青物は運動のため夜分自分に買ひに出ます。

評 收入の割合に支出少なく、隨つて剩餘の多き、此家計の如きは記者の始めて見る所なり。（記者は本誌の外に「なんな」誌上にても澤山の家計報知に接し居れども）費目中徒費といふものあれども、其說明に從へば、決して徒費にあらず、精神を慰めて著述に從事せらるゝを極めて切要にて、僅に五圓の費用を以て、其効果は較著なるものあるべし。殊に現金支拂の方針とせらるゝ、自ら行きて青物を購ひ給ふ、記者の敬服する所なり。「貯蓄者は公共の恩人也」といふ格言あり益々いそしみて大恩人となられむことを禱る。

鹿兒島市 某女 報

（前略）私宅は田舍處にて人數多くいろ〳〵家計に不注意の事もこれあるべく候へとも何分心に任せず候。母は耻かしければとて報知をいなみ候ひしも、田舍生活の有樣も皆樣の御一興と存候まゝ、強ひて母の許をえてさし出し申候。

一家族 拾四人（祖母、父、母、叔母二人、兄一人、自分、書生四人、下男一人、下女二人）

一收入金八拾五圓 內書生一人持參食料四圓、叔母より壹圓

一支出金八拾圓參拾壹錢

內譯

金五圓 交際費車代共

金壹圓九拾錢 書籍費

金拾參圓 被服費下駄傘共

金拾壹圓五拾錢 税金川割

金壹圓貳拾五錢 石油

金五圓 父小使

金壹圓五拾錢 叔母小使

金壹圓五拾錢 書生二人小使

金六圓六拾錢 父母生命保險

金貳圓拾錢 下女二人給金

金拾五圓 副食物薪炭

金四圓九拾錢 雜費

金五拾六錢 郵代

金壹圓 田畑に關する費用月割

金壹圓貳拾錢 新聞雜誌

金壹圓五拾錢 母小使

金壹圓 自分小使

金貳圓參拾錢 授業料

金參圓五拾錢 下男給金

米は小作農夫の上納米にて足り申候一日六升位入り申候、味噌醬油も自家製造に候、麥は畑小作の農夫より八斗程上納致し候へとも、是れにては不足に候、野菜は大抵自作致候、書生一人は食料學費自辨、餘の二人は給與、女學生は學費だけ自辨、是等の書生は皆親族の者に候、家族十四人の外に馬一頭犬二匹猫五匹雞六十羽位居り申候、猫も五匹居ると人一人の食料を要し候、犬も馬も雞も隨分入費かゝり申候是は雜費に加へ置き申候、農業の爲に日雇取を雇ひます是は晝食を與へて男は四十錢女は十八錢位に候、是は田畑に關する費目に入れ置申候、家屋は所有物なれば家賃を要せず候、序てながら當地目下の品物の直段を申上候

米一升 上々白十五錢六厘 上白十五錢二厘 中白十四錢八厘 醬油一升 貳拾壹錢 味噌一斤 五錢 石油一罐 壹圓五拾錢 酒一升 五拾六錢 炭一俵 二十五錢（白炭も同價）薪長さ一尺四寸位のものを巾六尺丈五尺に積立しもの二圓より三圓 酢一升 廿錢 牛肉一斤十二錢より廿錢 豚肉 十六錢より十八錢 鷄肉百目十四錢 魚二つ切六錢より十四錢 大根一本五六錢より一厘 櫻島大根一本五六百目より一貫二三百目のもの五錢より拾錢 茄子一つ五厘より七八厘（丸茄子三寸位長茄子四五寸位）、玉子一錢より二錢 蒸菓子七厘より一錢五厘 砂糖十二錢 茶二十錢 鹽三錢九厘

評「田舍紳士ほど羨しきはなしと」經濟學の大斗アダムスミス氏は云へり其羨むべき點なる、住居と食物とを有しながら、市にすまひ給ふ。羨ましきの極みなりかし。其收支に剩餘の少きは親族の少年だちを世話せらるゝが爲なり。此世話に費ゆる金は、貯金と同一の効力あるべしと記者は信ずるなり。

◎愛國婦人會々員勸誘日記の一節（其二）

三重縣 桑名町 會員 某

或時其夫妻に問ひて曰はく、汝常に喫煙を好むと人に勝れたり、然るに頃日絕て之を喫せず或は病氣の爲めなるかと。妻答へて曰はく否、私は過日奧村力自の講話に感じ、愛國婦人會に加入せしを以て喫煙を廢して會費に充てんのみと、わらは察するに此女敢て煙料を省かずとも會費に困難を感ずるが如き生活にもあらず、只美しき眞心の然らしむる處なりと思へば、誠に欣喜に堪へず、此會員の精神こそ實に本會の希ふ處なれと陳べしかば、主人大に感ずるものゝ如し。わらは且つ曰く老父吾に仝情を表し、七十九齡の身を以て杖により、遠路を凌ぎ勸誘に勉む、此父子が眞心をも察したまひて、願はくば敢て御承諾を仰がんと、父子交々頓首して切に請ひしに、主人欣然として遂に諾、即ち黑宮重利妻せきをと記名せられたり。父子倶に喜び謝して玄關に出づれば、姉が許より使の者傘下駄提燈を持ちて迎ひ待てり、時に午後七時十分、日は全く暮れて降雨の空となり、咫尺を辨ぜず、同行三人全家を辭し、殆んど半町にして西對海地なる郡會議員白木彌金次氏に至り、刺を通ずれば主人出て迎へらる。來意の要は前記の如し、主人曰はく趣意は實に同意すべし、然し當村未だ會員僅かに一名、暫らく熟考すべしと。わらは曰く貴命によりて申上ん、黑宮氏亦斯く仰せ給ひき、併し順次斯く仰せたまひなば、父子滿足を得んと實に容易ならず、請ふ察したまへよと、前記の事情を繰り返して申上しに、趣意も贊成なり、且つ余人ならず君が勸誘之を諾すべしと、即ち白木彌金次妻むろと記名せられたり。父子相喜びて頓首多謝、玄關に出づれば午後八時廿五分雨勢愈烈し、姉は案じて復下女を遣はせり、同行四人急ぎて歸路を辿れとも、老父歩行急ならず田圃の畦道巾一尺五寸斗り、凹凸甚しく、道路險なり、終始父を保護して午後九時五十分宿に歸り、夕飯を濟し浴を終り、家族團欒桑名町勸誘の狀況など打語りて午後十二時寢に就きたりき。（未完）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

◎天皇陛下　九州に於ける大演習御統監の爲、先頃行幸遊ばされ、去にし十九日還御あらせられたり。さて行幸中大御心の優渥なる事ども數多くありし中にも、本月十三日熊本縣飽託郡に於いて、大演習御統監に向はせらるゝ御途上、西牟田を御通過の折柄、一人の老媼の嫁とも覺しき女に脊負はれて、通御を拜しまゐらせしを、畏くも陛下の御目に留り、御馬上より御手づから御携帶の地圖をひらかせ賜ひ、老媼に御菓子を賜はるべき旨御沙汰あり。此光榮ある老媼は、飽託郡部田村大字西牟田、田中茂二太の母やを（八十八）にて、之を脊負ひしは其娘じゆん（五十）にて、徳久知事は御菓子を奉持し、先づ村役場に臨み、小學校長をも同伴し、同家に臨みし處、老婆を初め家族一同は驚喜ひとしく頭を垂れて、暫らくは言葉もなく感涙に咽びたるが、知事は其席に列なりし學校長に向ひて、此事を一般の兒童にも敎訓して聖意の在る所を知らしむべしと陳べて引取れり。同家にては恩賜の御菓子を三寶に載せ床の間に奉じて其上には兩陛下の御尊影を掛け、親戚故舊其前に拜伏して深く聖恩拜謝の意を致し、殊に老婆は夢の如き思にて此難有さも全く長壽の甲斐と嬉しさに近所を訪ひては聖恩の程を泣きつゝ語り居るとぞ。さて此母やをを脊負ひしじゆんといふは、若き頃より評判の娘にて、今は住居を異にせるも、旦暮母の安否を訪ひ慰むるが例の事にて、當日も親を思ふ眞心より、態々母を脊負ひ出でしが、端なく御目に觸れて此光榮を得たるも、一つは日頃孝行の德といふべく、又老母やをは至ッて壯健にて平生眼鏡を用ゐず、針の目を通すも更に障りなく、自家にて養蠶をなし機を織りなどし、八十八の高壽に達して子孫二夫婦迄打揃ひ玄孫まで持ち、和氣靄々たる狀は、他の見る目も羨やましき程なりと。猶德久知事には老婆が手織の紬一反を持歸りて、獻納の義を宮內大臣迄願出でしに、外ならぬ陛下の叡覽を掛けさせられし老婆が織りし紬なれば、此まゝ受領すべしとの御沙汰ありしと承はる。聖德かぎりなしといふべし。

◎皇后陛下　橫須賀造船所に於いて、新造の三等巡洋艦新高の進水式に御臨場の爲、去にし十五日橫須賀へ行啓あらせられたり。今其御模樣を拜記せんに、同日午後二時二十分井上鎮守府司令長官の先導にて、造船廠內なる進水式場に臨御、午後三時の滿潮を認むるや、山本海軍大臣式壇に立ちて命名書を捧讀し、造船官三鞭酒を艦體に濺ぎ、次で塚原造船廠長繫索を斷ちたれば、重量千六百噸の艦は、早くも船臺を離れて、水上のものとなり、見る〳〵船渠の彼方に浮び去れり。此首尾よき進水を、いとも御機嫌麗はしく　陛下は見そなはし、供奉諸員を隨へさせ、同四時十分橫須賀御發車還啓あらせられたり。

◎愛國婦人會記事

◎評議員會日割　本月及來月中の評議員會日割は左の如し

十一月廿六日（第四水曜日）　第五の組
十二月三日（第一水曜日）　第一の組
同　十日（第二水曜日）　第二の組
同　十七日（第三水曜日）　第三の組
同　廿四日（第四水曜日）　第四の組

但し時間は毎水曜日午後一時よりにして、出席者の多少に拘はらず開會す。

◎支部幹事長及び副幹事長　今回本會に於て新に囑托したる支部幹事長及び副幹事長左の如し

愛知縣知事深野一三夫人　深野次子（元福岡縣幹事長）
右明治三十五年十月十五日同縣幹事長囑托

福岡縣知事河島醇夫人　河島らく子（元滋賀縣幹事長）
右明治三十五年十月十五日同縣幹事長囑托

滋賀縣知事鈴木定直夫人　鈴木鐐子
右明治三十五年十月廿八日同縣幹事長囑托

陸軍步兵少佐田中伸稻夫人　田中賴子
右明治三十五年十月卅日茨城縣副幹事長囑托

島根縣知事井原昴夫人　井原かま子
右明治三十五年十一月四日同縣幹事長囑托

長野縣書記官橫田太一郞夫人　橫田逸尾子
右明治三十五年十一月八日同縣副幹事長囑托

◎奥村刀自長野新潟地方遊說日記（承前）

十月廿六日　新潟市なる縣立師範學校に於て開會す、來會者は本會員及び各婦人會の團躰にて六百餘名あり、

同　廿七日　同市縣立高等女學校にて開會す、聽衆は同校職員生徒、尋常高等小學校女生徒、産婆學校生徒、工業學校生徒其他校員の妻女等にして凡千百名あり、演說中二名の病者を出したり、何れも腦貧血にて暫時靜養の後歸宅するを得たり。

同　廿八日　午後一時より同市眞宗本派光林寺に於て開會す、來會者六百餘名にして丁年以上の婦人多く即時三十二名の入會者あり又賛成員にも若干名の申込ありき、當市へ着以來今日迄凡五十名の入會者ありたる旨通知に接す。

同　廿九日　同市長崎眞宗寺（本派）に於いて演說す、聽衆千百餘名、即時五十餘名の入會者ありき、閉會後鍵富三作氏の招待にて支部職員一同と共に晚餐の饗應を受く、柏田幹事長本日歸縣せられたり。

同　三十日　早朝知事を官邸に訪問し本會擴張の件につき懇談す、知事は明年を以て赤十字社支部發會式を擧ぐる心算にて本會支部の發會式も亦同時に擧行すべき旨を語られたり。知事は更に縣下の地理に精しき秋山縣屬を吾一行に隨行せしめらる。午前九時三十分沼垂驛を發し仝十時五分中蒲原郡新津町に着す、郡長夫人淸水きた子及び郡書記岡崎嘉金治氏停車場に出迎はれたり。午後二時より同町菓城寺に於て演說す聽衆六百餘名、同寺住職夫人は直に入會せられたり、尙郡長夫人は其父君の死去せられたるにも拘はらず斡旋せられ、爲に送葬を明日迄延期せられたる由なり。

同　卅一日　午前八時出發村松町に向ふ、同町を距る里餘の處迄第三十聯隊長（當時演習中）代理として陸軍々醫正田中太郞氏乘馬にて出迎はれ同十一時四十分村松町に着す同町所在聯隊將校夫人廿餘名町の入口にて出迎はれ大谷派淨誓寺に入る、午后二時より同町尋常小學校に於て演說す、田中谷內兩陸軍々醫正、長飯町長岡崎郡書記及び町役場員大に盡力せられ同四時閉會す、來會者八百餘名あり、水原町有志總代長谷部宗信氏訪問せられ又小須戶町公友會長大橋友昌氏外一人出張せられ小須戶町へも巡回せんとを談ぜられたれ共豫定ありて謝絕したり。

十一月一日　朝來大風雨を冒して水原町に向ひ午前十時過同町大谷派無爲信寺に着す、長谷部宗信氏及び有志家夫人十餘名町外に出迎はれたり、午後二時より同寺に於て開會す聽衆凡一千名、本日は同町小學校開校式ありて有志家は大に多忙なるにも拘はらず盡力せられたり、同四時閉會後有志家百餘名の茶話會に臨み講話す、昨今兩日中に貳拾餘名の入會者ありき。

同　二日　午前七時水原町を發し途中笹岡村五十嵐甚藏氏を訪ひ新發田町に着す本會幹事及有志家の出迎を受け同町大谷派長德寺に入る。午後二時より同寺に於て開會す林郡長紹介の勞を取られたり聽衆凡一千名、即時入會者拾餘名（何れも特別會員）あり、閉會後偕行社に於て岡崎評議員の主唱にて本會各郡會員及び有志者の一團より慰勞會を開かれ、出席したり、會衆凡七十名にて盛會なりき。當地は旅團所在地にて熱心家多く就中小野伊曾子氏（陸軍中尉未亡人）は從來土地の有志家を勸誘して一方ならず盡力せられ、又偕行社幹事小林泰長氏も當地幹事諸氏を援助して大に本會の爲に盡瘁せらる。（つゞく）

◎篤志家の寄附　新潟縣長岡町の川上佐太郞氏は去にし十三日同町妙宗寺に於ける、奥村刀自の演說を聽て大に感激せられ、即日其家族等を入會せしめ、更に金五拾圓を本會へ寄附すべき旨を申込まれたり。同氏は有名の篤志家にて、慈善事業には概ね金品の寄贈をなせりと云ふ、感ずべきかな。

◎篤志の會員　別項遊說日記中に記したる、去にし二日の慰勞會は、岡崎評議員の主唱にかゝり、同家には令孃を始め、抱へ車夫の妻迄加入して招待せられたる事とて、從來各地に於ける慰勞會は悉く謝絕したる奥村刀自も、悅んで出席せられたるなりと聞く。當日出席者七十餘名にて、殊に感ずべきは某といへる八十二歲の老媼なり、同女は將校夫人を除きては、新發田町に於ける最初の入會者にして其娘の田中みよ（北蒲原郡猿橋村）といへるも既に五十七歲にて、是亦通常會員に加はり居れりと云ふ。又車夫の妻は山脇クワとて、贊成員として每年三十錢宛、十ヶ年間納付する筈なりと云ふ、何れも篤志の人と謂ふべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◎堀田文學士の「女性の亞米利加化」　現時女子教育の缺點として、女子が生意氣となり、又た外國を崇拜する事等は憂ふるに足らず、蓋し他日其よく成功の時期あるべければなり。然るに仔細に觀察するに、別に決して看過すべからざるものを認む、即ち女性の本体を失へるを是なり。大阪の某高等女學校に於て其生徒に對して「女子たるを好むや、將た男子たるを好むや」の問を發したるに、男子たるを欲する者の數、女子たるを欲するものより多く、其女子たるを欲する者の理想とする所も、女丈夫的婦人なりしと云ふ。尋常小學程度にてはいざ知らず、高等女學程度の生徒の理想此の如しとは、吾人轉た痛嘆に堪えざるなり。蓋し近來女子教育は模範を米國に執る、從來の輸入も亦然り、婦人をして婦人らしからしめざるに至れるは、全く亞米利加仕込、即ち「男子と同樣に教育さるゝ」と云ふ點に、多くの感化を受けたるが爲なり。由來亞米利加婦人の模範とすべからざる、吾邦に於てのみならず歐洲に於ても亦然り、英國の一記者は、現社會の女性を以て感情をすら僞るものとして非難し、更に思へらく、彼等の望む所は高價にして容易に求むべからず、其愛する所は必竟爵位と權勢とのみ、浮誇虛飾の競爭は漸次彼等をして自然の風致を損せしめ、傲慢不遜の態度は凡て彼等の醇良なる風習を壞るに至らしめぬ、而して此流行病は多く亞米利加より來れるものにして、其亞米利加的勢力は英人をして漸次拜金宗の宗徒たらしめ、日々奢侈贅澤に流れしめ、流行に向うて奔ること狂するが如く、社會は沒趣味となり、容儀と制裁とをして蕩然地を掃はしむ、從て亞米利加流の女性は、名譽心を以て滿ちたる俗物にして、快樂の爲には何事をもなし、社交の如きも自己の利益を擴張する手段に外ならず、かゝる女性と結んで家庭を作らんか、惡魔と共に在るものなりと。記者の此言は英國の女性に就て憂ひたるものなれども、之れ英國に限るにあらず、歐洲に於て頻りに勢力を及ぼしつゝあるもの、延て吾邦亦大に其惡化を受く、識者豈之を等閑に付して可ならんや。吾人は切に教育家に望む、かゝる亞米利加婦人の唱ふる主義を、吾教育に注入するをなからんことを。(女學世界)

◎德富猪一郎氏の「結婚論」　結婚は果して幸福なりや否やの問題は別として、如何にせば婚姻は人に幸福を與ふるかを論ぜん。從來日本には婚姻を輕卒になすの弊あり、然れとも婚姻を余りに重大視するの極は、其配を求めて得る事能はず、遂に人は生活するが爲めに結婚するに非ずして、結婚するが爲めに生活すと云ふが如き有樣に至るべし。戀愛は婚姻の要素なれども、之を以て唯一の要素としたる結婚は、永續を期し難し、何となれは戀愛は情慾の發動に過ぎず、情には時に冷熱の生ずるは免る可からざる次第にして、世に破鏡覆水の悲劇は多く之れより生ず。故に幸福なる結婚をなさんと欲せば、其始めに當り多くの慾望を婚姻より得んとするを望む勿れ、自己の補助者よりも妨害者たらざるを求めよ、幸福を得んとするよりも不幸に遠ざかるとを期せよ、如此にして長なへに幸福なる結婚を得べし。蓋結婚の幸不幸は、結婚前の關係よりも結婚後の關係にあり、人性相距ると遼からず、故に互に相敬し相親まば、相居る久うして何ぞ愛せざるを得ん。實に結婚は之を等閑に附すべからず、然れども更に等閑になすべからざるは結婚の後に在り。(國民新聞)

◎木下尚江氏の「女學生問題の研究」　女學生問題は一言以て之を蔽へば、日本社會の病症發露に外ならず。元來婦人自活の準備には二面の注意を要す、一は職業に關する物質的教育にして、一は信仰道德に關する精神的教育なり、此二面の準備調はずんば社會と學校と共に其弊に堪えざらん。然るに今の日本には、宗教の以て信仰を維持するものなく、道德の以て風紀を振肅するものなく、萬人日夜に苦慮する所の者は、只だ「生活問題」のみ、此の如き社會に於て、如何ぞ人性と神性との發揮を庶幾すべけんや、發露する所のものは動物性のみ。所謂當今の女學生墮落の眞相を窺ふに、其一部分は無資力の年少女子が、學資を稼ぎつゝ苦學せんと欲するより來る。然るに今日の社會は、是等の女性に適當なる職業を興ふると能はず、然も切迫せる自活問題の爲に、是非金錢を得ざるべからず、而て獸慾の威を逞うする今日の社會は、遂に彼等を誘惑して賣淫の暗黑界に導くなり。學資ある女學生に向つても亦大誘惑あり、彼等は新に解放せられて身心の自由を得たるものにして、其年齡正に婦人生涯の危機に立ちつゝあり、此際金力と獸慾との支配する社會は、彼等の動物性を刺激して奢侈と不品行とに陷らしむ、是れ當然の成行にして少しも怪むに足らざる也。然れども此頽風を見て、之を鞭撻すべき資格あるもの何處に在るや、元來我國には女性の人格を認めて、之に對すべき倫理の思想に缺如せり、故に今や婦人解放の時期に到達して、社會に嚴正なる道德の基本を得る能はず、女性亦男子と同樣の自由の生活を欲望す、男子の自由生活とは何ぞ、即ち獸行の自由のみ、社會既に此の如く、人心只だ物質的方面にのみ走せて、全然精神的方面を顧るなきは、今日社會の通弊なり、苟も此病源に向て大手術を施すに非ずんは、社會の改善得て期すべからず。云々　(六合雜誌)

◎雜報

◎華族女學校　同校には去にし十七日、同校構内にて第十五回秋期運動會を催したり。當日は　皇后陛下行啓あらせられ、常宮、周宮、兩内親王殿下、小松若宮妃、華頂宮妃　梨本宮妃の三殿下を始め奉り、陪觀の貴婦人數百名あり、後庭運動場に於て生徒の種々なる遊技運動を催し、午後四時過ぎ閉會せり。當日皇太子妃殿下より、御名代を差遣はされ、金子若干を賜はりたるよし。

◎東京府立第二高等女學校　同校に於ては本月七日創立紀念日を祝し、同時に運動會を開きし事は、前號の紙上に報導せし所なるが、同日女子師範部の運動最も美はしく一遊技と雖とも能く運動の目的に叶ひ、假令ひ過失あるも再演して終局を結びし類の如きは、男子に比して一層婦人の特色を顯はし、參觀者を感服せしめたりと云ふ。

◎東京音樂學校　同校秋期演奏會は、去にし十五十六の兩日午後一時より行はれたるが、兩日共非常に多數の傍聽者あり、諸教師の演奏は何れも上出來なりしが、特に生徒小林禮氏のピアノ獨奏、青木兒氏及柴田環氏の唱歌獨唱は何れも滿堂の喝采を博したり。

◎日本女子大學校　同校には今般別に特別科を置き、ピアノ、ヴアヰオリン等、音樂の教授を施すべき設備を爲す趣きなり。

◎女子東京美術學校　神田區仲猿樂町の同校は、今回藏原惟郭氏を校長に推選し、監督に長岡子爵、顧問に湯本武比古、伊澤修二、辻新二諸氏を置き、大に内部の整理を爲すよしにて、去る廿二日新築落成式と共に開校式を擧行し、當日岡田良平、井上哲治郎、千家男爵、辻新次諸氏其他來賓の祝辭演說等ありて、頗る盛會なりしよし、尙廿三日廿四日の兩日、校内に於て各科生徒の成績品展覽會を開きたり。

◎女子美術學校　本郷弓町なる仝校は去る三日天長節の佳辰に際して、選科卒業生卒業證書の授與式を行へり。今回の卒業生は裁縫、刺繡、造花、編物の四科の生徒にて、昨年四月以來一ヶ年半修業して去月執行の學年末試驗に好成績を得たるものなりと云ふ又仝校日本畫科教授兼幹事島田友春氏は此程辭任されたるを以て、前高等師範學校教諭武村耕靄女史(千佐子)代つて仝科教授となり、川鍋豐子女史と共に熱心教鞭を取られてあり、各科通して生徒三百廿餘名にして内裁縫科日本畫科は其最多數を占むといふ。

◎京都府の高等女學校　京都府にては近年高等女學校入學志願者非常に多く現在の一高等女學校にては到底之れを收容する能はず、已むを得ず望を空しくせしむるを遺憾とし、明年度より第二高等女學校設立の計畫を立て、本月の通常府會に三十五年度追加豫算として、其費用五千圓を請求する筈なるが、同校は土手町舊高等女學校を修繕し、之に充つる計畫なりといふ。

◎函館高等女學校　同校設立の件は、去にし十八日の區會にて決定せしよし。

◎女子修養會　今回神田の女子東京美術學校内に、表題の如き會を設け、左の會則により講話を開くよし。

一、本會は學識德望ある諸大家を聘し、每月一回本校内に講話會を開き生徒の品性を修養し併せて清新なる學風の振興を期す。

一、講話會開會の際は、時々音樂の演奏、繪畫彫刻其他の美術製作品を展覽し、女子の情操を高め美感の涵養に資す。

一、他の女學校生徒にても、希望の者は特に參會を許す。

◎女學校教師の光榮　熊本御駐蹕中、尙絅高等女學校教師岩間ゑみ、熊本師範學校訓導大津山ひさの兩女を召され、教育者の廉を以て小袖の御召服裁縫を命ぜらるゝ旨御沙汰あり。兩女は無上の光榮を感佩して、直に沐浴身體を淸め、大本營内の一室にて午後四時頃より裁縫に取掛り、十一時頃に之を了へて差出せしに、宮内官より慰勞の辭に若干金を添へて下賜あり、夜中なればとて大本營附の人力車に乘せ、夫々歸宅せしめられしとなり。

◎海軍下士卒集會所の近況　同所の事は屢々本紙に紹介せしが、今其設立後の景況を聞くに、水兵の上陸後、喜んで此高潔なる場所に勞を慰せんとして來り集るもの多く、其品性を高めたるは驚く程なりと云ふ。同所は慈善的の設備なるを以て、其摸樣を公衆に告白するの必要あり、赤十字社大會の當時にも、社員を集會所に導き、一々說明の勞を採りしが、此程　皇后陛下同地へ行啓の際にも、同所門前に御馬車を駐めさせ玉ひ、兵員慰安の事業を深く御嘉賞あらせられ、金五百圓の御下賜金ありたるよし。

◎動物虐待防止會　同會の近況を聞くに、同會は警視廳の同情を得、諸般の運動上に都合を得たりとぞ。先月廿五日には芝唯一館に於て第一回總會を開き、名士の演說ありし由。其節婦人の來會者も十數名あり、後に懇親會を三緣亭に開き、發起人中より二十五名の評議員を選定し、且つ幹事三名を選び會員章を送る事も議せしよしにて、次回は來春大演說會を神田方面に於て開會するよしなるが、元來同會は婦人社會よりして同情を得ざる可からざるにより、漸次進んで之れが方法を講ずるよし。

◎カラーザス夫人の歡迎會　カラーザス夫人は、米國カリフォルニア州の人にして、明治二年宣敎の目的を以て我國に渡來し、日本の婦人に始めて英語を敎へたるなるが、明治九年歸國後も、終始日本の事を忘れず再遊を期し、此程其希望を遂して渡來したるを以て、當時夫人の薰陶を受けたる人々申合せ、去にし十五日小石川後樂園に歡迎會を開きたるが、來會者三十餘名、互に往時を語りて靜閑の裡に閉會したるよし。夫人の話しの一節によれば、當時英語を學ぶものは、男子にさへ多からざりしに、況して女子は一層稀れにして、適々當人は志あるも、親戚友人より之を制止する例にて、中には女子にして髮を結び袴を穿ち、男子の裝をなして來りたるものさへありしよしにて、日本今日の文明の驚くべき進步を稱賛し居たり、尙ほ同夫人は今日の日本を世界に紹介せんがため一の著述を爲すよし。

◎大日本婦人敎育會　同會は去にし十五日華族女學校附屬幼稚園に於て、常集會を催せしが、總裁閑院宮妃殿下を始め奉り、來會者頗る多く、米國禁酒會特派員スマート孃、及び新に歸朝したる巖谷季雄氏の演說ありたり。

◎母の會演說會　同會は去にし廿日銀座會館に於て開會、來會者百餘名スマート孃の母の責任と其感化力とに就ての演說、弘田醫學博士の婦人改良服に就ての演說ありし由。

◎長野縣今里婦人會　長野縣更級郡笹井村今里村の有志婦人は、去にし十六日同地小學校内に於て婦人會發會式を行ひたり。會員九十六名、贊成員十二名にて有志者の講話ありて後茶話會に移り午後四時散會せり。

◎岡山縣玉島婦人會　同縣淺口郡玉島町の有志婦人は去にし十五日同地高等小學校内に於て發會式を擧けたり。會員二百余名外に名譽員三十名來會あり、有志者の演說ありて後ち音樂の余興あり、午後五時散會せり。

◎島根縣杉江婦人會　同會は去にし十七日同地師範學校にて開會、講師の講話あり了て茶菓の饗應ありたり。

◎神奈川縣秦野婦人會　神奈川縣中郡秦野町の有志婦人は、去にし十日午後一時同地佐藤さと子氏宅を會場とし發會式を擧けたり。始めに役員の選擧其他の議事を終へ、後茶話會を開き、有益なる講話ありたり。同會の首唱者は、皆我が愛國婦人會の會員にて發企者總て同會幹事に任ぜられ、每月十日例會を開き、春秋二期に大會を開くよし。開會の時は名士を招き講話を聞き、又積立てたる會費を以て有益なる書籍を購入し、會員に回送順覽せしむる仕組のよし、同地會員よりの報知による。

◎前橋積善婦人會　去にし十六日發會式を擧行せり、當日鈴木たま女史開會の趣旨を陳べ、議長の選定、會則の議定、祝文祝辭の朗讀あり、來會者二百余名、東京より棚橋女史も來會、演說せられ頗る盛會なりしよし。

◎伯林のお伽芝居　獨乙伯林に於ては、クリスマスの間際に至れば、表題の如き芝居を興行するよしにて、演ずる藝題は何れもお伽噺を仕組み、中々趣味深ければ、見物の多くは子供なれど、大人にも面白く、子供が主人公となり、大人を伴ひ見物に赴くよし。お伽噺にて有名なる漣山人の談話に見ゆ。

◎米國婦人の度量　米國の一婦人は此程二十個の鞄に入れし價格十万八千圓の外國製衣服を携帶して、本國に歸來の途次、海關税の手續に誤りありし爲め、稅關吏は之に對し罰金八万圓を課せしが、婦人は一言の抗議もせず八万圓を綺麗に支拂ひたるよし。

◎米國と日本の生產力　本會の相談役澁澤榮一氏此程歸朝し、或る席に於ける談話の一節に曰く、日本人の働く度合と、亞米利加人の働く度合には、非常の相違あり。日本人は體格も小さく智力も劣り、加ふるに個人自活の力に乏しく、一家殆んど家長の腕をかりる風習なるにより、之を生ずる人少なくして之を食む人多ければ、財は常に足らざるなり。之に反して米國は、男と云はず女と云はず、個人銘々自立自活の力に富みて、他に依賴する事少し。故に自ら生し自から食みて、財常に足る、とは米國の謂なるべし、云々。

◎勤勉なる農夫　英國のアバーチーン伯爵は、蘇蘭に六萬三千エークルの田地を有して居るが、一日同伯爵が其の所有地を耕して居る農夫に向つて、「どうだね、土地柄は良いかね」と尋ねると、其の農夫は「アー」と言つたぎり耕作を續けて居るので、伯爵は重ねて、「今年の收穫は」と尋ねると、鍬の手を休めぬ農夫は、同伯爵が此地の所有者とも知らぬので、「お前樣が此所の地主なら、そんな問ひをかけて、百姓に無駄な時間を潰させはしまい!」というた。

◎日本人と歐洲人との身長　双方の平均身長及び體量の相違左の如し

		男	女
身長	歐洲人	五尺五寸四分	五尺二寸一分
	日本人	五尺二寸五分	四尺八寸四分
體量	歐洲人	十七貫三百目	十五貫六百目
	日本人	十五貫	十三貫

◎交詢

▲本月十日御發行の「愛國婦人」社說欄に於て「婦人の集會に就て」と云ふ御論說を拜見致し、記者閣下の御論旨ある所を深く相感じ申候。恰も當秦野町有志婦人が、而かも貴紙御發行の日を以て、發會式を擧げたる、秦野婦人會の主義目的も、記者閣下の御論旨ある所と遠く御離れざる樣拜せられ候。此種の婦人會が、地方各所に續々起らんとを小生は切望致し居候。(神奈川縣秦野町天眞居士)▲桑名町有志の勸誘日記を拜讀して感服に堪へません、かやうな方と紙上に於て御交際がしたいと思ひます本名を知らして頂きたいです(福岡の一會員)▲評議員會に評議員方の御出席は何時でも少ない樣に見受けますが一組は何人位御座りますか(牛込會員某)▲愛國婦人會員を以て各地に婦人團体を作りて交際を盛にしたなら便利であらうと思ひます(京都の某女)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

早稻田大學文學部校外生募集

●文學教育科、史學科とも毎月二回の講義錄を發行す●一回の講義紙數二百頁内外にして二ヶ年卒業とす●月謝各六十錢、三ヶ月壹圓七十錢、半ヶ年三圓卅錢、一ヶ年六圓五十錢●學術普及の趣旨に基き本年度より入學金を全廢す

文學教育科講義

▲十月上旬一號發行、此際申込に便なり▼

掲載科目　倫理學、和漢の倫理學史、憲法、教育學、日本西洋の教育史、心理學、哲學、美學、言語學、和漢の文學史、和漢の文典、作文法、西洋の文學思潮史、文學概論、文學批評法、國文國歌の評釋、有職故實、漢文漢詩の評釋、支那時文、漢字顚倒排置法、文部省試驗問題擬答（教育、倫理、國漢文）、參考書案内、其他

擔任講師　坪内、高田、木村、小杉、大塚、桑木の諸博士、赤堀、有馬、北村、中野、雀部、保科、和田、上田、久保、武島、長、高橋、桂、大橋、中島、綱島、高島、菊池、青柳、五十嵐、永井、廣池、梅澤、正宗等の諸講師

史學科講義

▲十月中旬一號發行、此際申込に便なり▼

掲載科目　日本史（古代、奈良朝、王朝、鎌倉時代、南北朝、室町時代、安土桃山時代、江戸時代、幕末史論、明治史）、西洋史（古代、埃及、古代西南亞細亞、希臘、羅馬、英吉利、佛蘭西、匈牙利、土耳古、獨逸、露西亞、南北亞米利加、殖民史、政治史）、東洋史（匈奴、淸國、中央亞細亞、印度、波斯、亞剌比亞、蒙古、朝鮮史）、傳記、解題、文部省試驗問題擬答（歷史全部）、其他

擔任講師　重野、星野、三宅、白鳥、有賀、那珂の諸博士、久米、福地、箕作、浮田、池田、渡邊、高桑、坂本、野々村、三輪、阿部、長瀨、河野、新見等の諸講師

本講義錄の講習者は掲載の講義に就て質問することを得べく其の他種々の特典あり細則を要する者は申込まるべし

東京牛込早稻田
早稻田大學出版部

東京風俗志

平出鏗次郎先生著述

▲上中下三冊大和綴最上日本紙刷、挿入木版銅版數百彫刻印刷最精巧△定價上卷金五十錢中卷金六十錢下卷金七十五錢郵税各金六錢▲本書上中卷世既に好評あり、今下卷出て、玆に完成を告ぐ、その周到なる觀察遒麗なる文辭、東京風俗の起源を說き、變遷を論じ微に入り細を穿つの所、實に掌上紋を指すの概あり、加ふるに鮮明美麗なる挿繪概ね二百を挿みたれば、都門の光景は紙上に躍然たり、若し夫れ遊樂の眼を以て繙かば坐に壘堤の花に醉ひ、東臺の鐘に耳を歆つ感あるべく研究の志を以て讀まば、社會倫理敎育或は歷史地理の學に幾多の資を供するべし請ふ愛讀の榮を賜はらんことを……

發兌元　東京神田裏神保町　富山房

賣捌所　東京堂●林平●播磨屋●寶永館●文會堂●中西屋●其他全國各書林

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り　電話新橋八一六番

本郷一丁目　本郷支店
飯倉四ッ辻　飯倉支店
赤坂表一丁目　赤坂支店
四谷大通り　四谷支店
南品川一丁目　品川支店
横濱吉田町　横濱支店
牛込神樂坂　神樂坂支店
神田須田町　須田町支店
兩國米澤町　米澤町支店
淺草雷門前　吾妻橋支店
代理店　日本橋坂本町　田中銀行

●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●毎月五日迄の御預け金は全月分の利子を付け申候

大日本女學會

會員募集

總裁小松大宮妃殿下
副總裁鍋島侯爵夫人
推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他貴婦人百餘名

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は東京帝國大學華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科（毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了東脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁）

○倫理坪内雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂　正臣○文法今泉定介○作文同　○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋　弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野淸○動物渡瀨庄三郎○植物松村任三○生理衛生三宅秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭敎育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂　正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成績○點茶松浦伯爵○國藝池田伴親○法制經濟岡戸諭介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科（毎月一回五日女學講義發行二個年終了東脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁）

○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋　弘○日本歷史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅　秀○家事綱要後閑菊野○家庭敎育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂　正臣○圖書武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●東脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始　十二卷迄發行　初卷より缺本なし

東京麴町下二番町三七（電話番町壹參參〇）大日本女學會

◎第五號十一月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人界

婦人界第五號目次

挿畫＝秋色（上村松園女史筆木版極彩色）

平和―德大寺侯爵夫人の和歌―大隈伯の庭園エミールアダン筆「晩歸」―名家の肖像―揚貴妃、令孃鑑―安藝の嚴島

▲家庭
露帝の家庭……
三薹の隱居……
子規子の家庭……
家庭日記（投）……
菊の宴……山崎綠陰
幼稚園の事業……ドクトル・オブ・ヒロソフ井ー　北島亘
養蜂の話……在大學　さなへ生
日本料理……成女學校料理會
菊料理―鯨料理―生魚の臭きを去ること
投書　家庭日記、子供の育行

▲小說
指輪の罰……國木田獨步
神秘の慘劇……三木天遊

▲社會
婦人の罪惡……一記者
婦人の半面……閑香生

▲文藝
京都の秋（京都より）……
婦人記者と競爭す……淺田空花譯
府下各女學校長意見……
源氏物語手引……新保磐次
女流文學（下）……中村秋香
俳句妄解……中根淑

▲史傳
加賀の千代（後半）……小川煙村
紹介棚橋絢子……濱涯生

▲詞藻
落潮記（一）……齋藤弔花
懸賞和歌及新體詩　中島歌子先生選　大和田建樹先生選

▲談叢
女子大學運動會……白井規矩郎
閨秀談叢（一）……
片岡夫人談片……
交際場……

▲時報

◎定價一冊に付金貳拾錢郵税貳錢●七冊前金壹圓四拾四錢●十四冊（郵税共）前金貳圓七拾八錢

發行所　東京本町　金港堂書籍株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

婦人洋服地幷附屬品及袴地

服地、リボン、羽根エリ巻、手袋、肩掛、帽子、造花、羽根、ピン、櫛、女學校用袴地

各種着荷仕候吾妻コート地珍柄種々澤山新着仕候尚廉價ニ調新仕候間多少共御注文被下度願上候

東京市麴町區麴町二丁目七番地

婦人洋服地 附屬小間物 卸小賣商 八木屋號 **大國服裝店**

電話番町七四二番

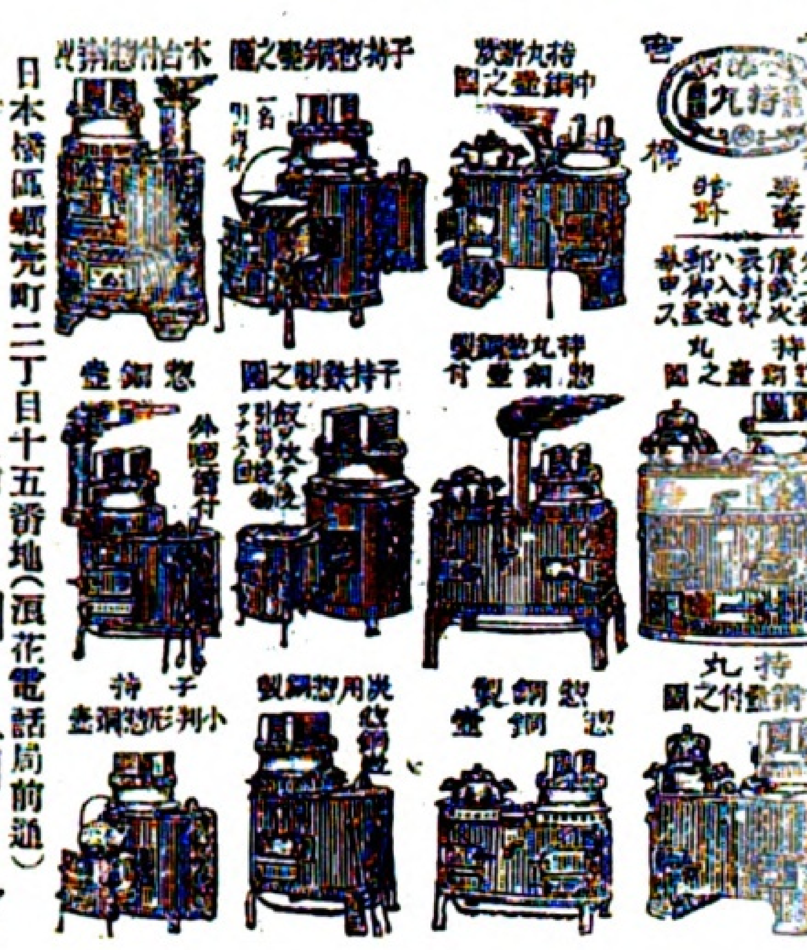
(み)

誂袴專門

東京日本橋區長谷川町 卸部 **美濃磯本店**

電話浪花二千八百五十九番 電信略号ミイソ

小賣部 東京本郷區本郷五丁目十三番地 **美濃磯支店** 電話本局千四百十五番



製造發賣元 日本橋區蠣殼町二丁目十五番地(濱花電話局前通) **名和商會**

神田區松永町十八番地和泉橋通 **名和支店**

○**水原産科婦人科病院**

○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設置あり

愛國婦人廣告取扱

神田區千代田町 **博報堂** 電話本局一四四番

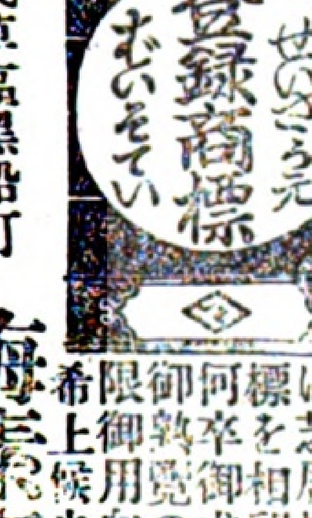
京橋區尾張町 **弘報堂** 電話新橋八五二番

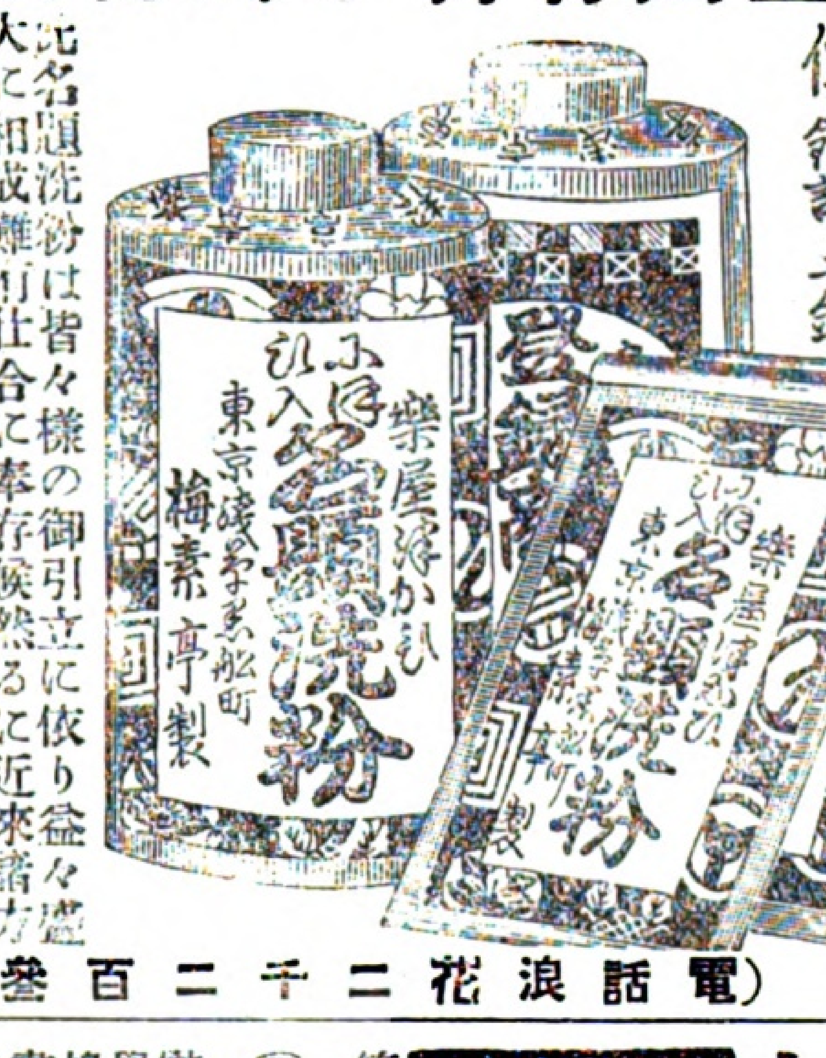
京橋區八丁堀中町 **一星社**

日本橋區上槇町 **万年社** 電話本局一一二五

全國有名小間物店にあり

價 壹袋壹錢 罐詰五錢





此名題洗粉は皆々樣の御引立に依り益々盛大に相成難有仕合に奉存候然るに近來諸方に名題洗粉の摸造品澤山顯はれ候に付弊店製造品には袋の裏面に芝居櫓形の登錄商標を相印し御座候間何卒御求の節は篤と御熟覽の上多少に不限御用向の程偏に奉希上候也

東京淺草區黑船町 **梅素亭謹製**

(電話浪花二千二百參拾四番)

日本室用 木炭焚 **暖爐** 烟突不要

最新式◎一空氣の乾濕を適度に調製し
改良器◎一炭酸瓦斯の發生を防止せる
●●衛生上有益なる日本室用の暖爐●●
●●醫學社會の賞賛ある最優等暖爐●●

此器は少量の炭火を以て室內全體を快く溫暖に成し溫度上昇自在にて炭酸瓦斯の害無く火氣にのぼせる憂無く室內空氣の乾濕を適度に調製せるを衛生上有益の構造にて安全經濟に持運び自在に形狀優美堅固也

●有益の證●此器の衛生上有益なるは宮城縣病院日本赤十字社東京府立病院以下各府縣立私立病院及び足立軍醫監を始め多數の醫學者方が御試驗の上數個乃至十數個づゝ續々御賞用あるにて證す可く其他文部省外務省農科大學大審院一條公二條公九條公鷹司公島津公德川公老公同侯山內公大山侯蜂須賀侯以下八十有餘名の華族方並に佐久間中將寺內大迫中將以下其の他合せて已に二萬個近く御用受け大抵御試用後重て數個御賞用好評を受け候

正價荷造共六圓廿五錢

東京麴町區隼町廿番地 **山本賣店**

宮中御歌所寄人 中郁秋香先生著

文子草の錦

和裝高尚優美本●定價三十五錢●郵稅六錢

本書は古學復興以來諸名家の文詞中金玉の響あるもの無慮數百編を輯錄せるものにして、記事あり紀行あり論說あり消息あり物語躰も韻文もありこれに加ふるに要語數千を載せて作習の摸範と應用とに供す故に常に此書を座右にせば天下の名文を會得し一度び筆を執れば千言萬語の長編大作一氣阿成するに至らん。今や訂正三版を發行す國文學研究の諸君は座右に一本を供られんことを

久津見蕨村著 増訂五版

家庭教育 子供の[illegible]

●表裝瀟洒艶麗●定價廿五錢●郵稅四錢

家庭敎育不完全の聲漸く喧し世上是が適切なる參考書を要求すること頗る急にして其之を缺けるがために子女敎育上大なる不便を感じつゝあるは識者の常に遺憾となせる所なり

本書は著者が該博の識と多年の實驗に依り幼稚、兒童、少年、青年時代の四段階に至る家庭敎育の仕方を言文一致にて十三章百六十餘條に說き示されたる者なれば婦女子にても容易に理解せられ直に實際に試むることを得べきやう記述したる近來稀に見るの好著なり

發兌元 東京市日本橋區箔屋町十六 **前川文榮閣**

總裁小松大宮妃殿下 副總裁鍋島侯爵令夫人

大日本女學會發行 東京麴町區下二番町三十七

をんな

第二卷第十一號發兌

毎月一回十五日發行定價金拾五錢全國無遞送料

(卷首寫眞)本會賛成員三井五十子筆、一新選女百人一首歌かるた●(論說)女子美術學校新築落成式祝辭、松方伯爵、佐藤醫學博士、清浦男爵●三輪田女學校開校式祝辭、成瀬仁藏●婦人讀書會開會の辭、鳩山春子●婦人の集會に就て、山澤俊夫(學藝)和書解題(今鏡・増鏡)喜田文學士●漢書解題(北齋書譜)其他六書)丸井文學士●作文批評、今泉定介●作歌批評、大口鯛二●日本名媛批評(檀林皇后)下田歌子●數理に關する地理の話、上野清●秋の木の葉、服部理學士●兒童の言語(六)梅澤和軒●音樂の話(二)森とづか(修身)歐洲女德變遷史(其二)本田増次郎(齊家)點茶松浦伯爵●割烹、石井泰次郎●家計費目の割合、呉文聰●家計收支の實況(世務)法制談(犯罪及刑罰)岡戸法學士●各地産業の實況(二十八)甲斐絹、無海山人(詞藻)十一月五日宮中御歌會御兼題詠進●みやび會詞藻(雜錄)刺繡(承前)木村仲子●緋の話、中村綠水(彙報)內外要報十數件

明治三十五年十一月廿五日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 大日本女學會內

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN